

# 職員の所属感を高める職員室のあり方についての実践研究

今村 俊輔  
横浜市立茅ヶ崎台小学校

## <抄 録>

小学校の職員室というのは、どの小学校に異動してもほとんど変わらない。管理職の机が前方にあり、島ごとに学年が配置されている。机や棚はグレーで古くて錆びかけている。魅力的なオフィスという言葉からは、かけ離れている。職員室を職員にとって魅力的であり、機能的で働きやすい執務空間になるようにすることを目指した。それは、職員の働く意欲向上につながると思ったからである。本研究では、職員室レイアウトプロジェクトの前後における職員の意識や行動の変化について検討することを目的とした。その結果、魅力的で働きやすい職員室の要因はさまざまであるが、一人一人の職員のアイデアが生かされた魅力的で働きやすい職員室に近づき、職員の意識や行動の変化の兆しが見られた。本研究は、実験的な研究とは異なって現場での実験的研究であり、諸要因を統制することができない中で行われたため、明確な結論を示すにはさらにこのような研究の蓄積が求められる。

## <キーワード>

職員室レイアウト、チームビルディング、職員の意識・行動の変化

## 1 はじめに

教室でこのように子どもたちに語ったことはないだろうか？「自分たちの教室なのだから、〇〇しよう」これは、クラスへの所属感に対して働きかけている言葉である。自分のクラスが魅力的な場であり、クラスの運営に自分の意見が反映されているような場であれば所属感が高まる。だからこそ、汚れていれば進んで掃除をするし、困ったことがあれば解決しようとする。逆に所属感が低ければ、進んでクラスのために行動しないだろう。

これは、職員室も同様に思う。ほとんどの小学校の職員室は同じような形であり、職員全体のアイデアが生かされた魅力的な職員室とは言い難い。また、お役所体質といわれるように、多くの学校では事なかれ主義や前例踏襲主義などにより革新的な試みは容易に出現していない。

この意識を改革し、なおかつ職員の所属感を高めていきたい。魅力的な職員室について、様々な職員の意見をもとに、チームとして作りあげていけば、誰にとっても居心地の良い空間をつくることのできるのではないかと考えた。

## 2 職員室レイアウトプロジェクトの経緯

2019年に職員の増加に伴って、職員室の机の数が足りなくなり、新しく倉庫としてつかっていた部屋を第二職員室にすることになった。しかし、元倉庫だったので居心地も悪く、情報共有もやりにくいところがあった。また、職員室の中に憩いのスペースや集まって

話し合うような場がなく、職員机が詰まっている印象が強かった。そこで、教育施設課による職員室拡張工事を実施することになった。拡張工事を行っても、働きやすい職員室について考えていかなければ、机の位置をただ広げるだけになってしまう。職員室レイアウトプロジェクトを先行実施して横浜市立富士見台小学校に習い、コクヨ株式会社に相談してレイアウトを考えてみることにした。また、校務分掌にない業務なので、職員室レイアウトプロジェクトを立ち上げることを学校経営計画反省に提出した。提案は承認され、令和2年度に実施することになった。

## 3 職員室レイアウトプロジェクトの方向性

校務分掌にない仕事なので、有志が集まって進めていく「プロジェクト」として活動することになった。募集をかけると全職員の3分の1ほどの16人の職員が手を挙げた。1回目の会議では、どのようなことができるのか方向性を確認するために少人数に分かれて「職員室レイアウトプロジェクトでやってみたいこと」について話し合った。

写真1、写真2、写真3のように話し合った内容を整理して、3つのグループを作り役割分担をした。

Aチーム：レイアウト・動線、企業渉外、棚配分・整理

Bチーム：水回り、流し場、冷蔵庫、間接照明、緑化、会計

Cチーム：ICT、ケーブル、職員アンケート集約

それぞれのチームがグループごとに企画会を行い、第2回会議で提案することになった。

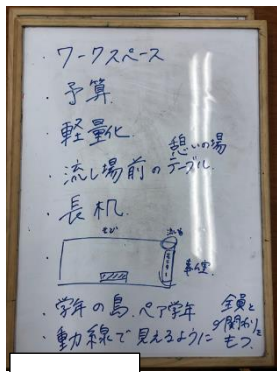


写真1

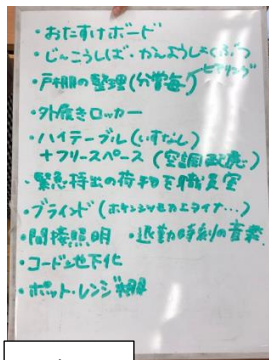


写真2

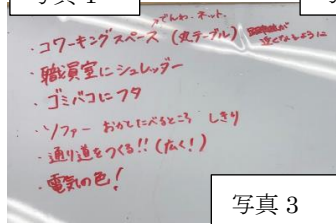


写真3

第1回の会議でブレインストーミングを行ったが、どんなアイデアも否定せずに受け入れることを大切にしたい。働きやすく、居心地のよい職員室にするために一般的な職員室では考えられないようなアイデアが多く挙げられた。そういったアイデアは、メンバーの意欲を高めるのに効果的であったと考える。また、プロジェクトに参加していない職員の見解も反映するために、議事録を共有し、意見をアンケートに記入してもらった。

#### 4 研究の目的

本プロジェクトは、職員室レイアウトプロジェクトの進め方に関する話し合いから、職員室のデザインを単にレイアウトの変更にとどまらず、職員の創造的・独創的なアイデアも参考にしつつ魅力的で働きやすい職場づくりを目的とした。そこで、本研究においては、自分たちのアイデアが生かされた職場を作ることで、所属感を高め、働く意欲に変化が見られるかを検証することを目的とした。

なお、本事例は現場での効果を高めることを優先事項として行われた職員室レイアウトプロジェクトであるため、研究計画としては厳密さを欠くところがあることは否めない。しかしながら、実際の事例において得られたデータは貴重であるため、そこから読み取ることでできる知見を報告することとする。

#### 5 研究の方法

(1) 2020年2月、プロジェクト開始。職員へのアンケート調査検討。調査項目は、職員室の環境、働き

方の特徴、および所属感について記述式で回答。

- (2) T小学校、40名中21名の回答を得た。
- (3) 2020年5月より、プロジェクト活動。9月に職員室のレイアウト決定、関係企業等との交渉。
- (4) 2021年3月、プロジェクト終了。
- (5) 職員にWebアンケートを実施。調査項目は職員室の環境、働き方の特徴、および所属感。15名の回答を得た。

### 6 結果

#### 第2回職員室レイアウト会議

それぞれのグループが原案を持ち寄って全体で話し合った。職員室のレイアウトについては、2月に実施したアンケートによると、職員機の圧迫感、動線の悪さ、話し合う場がないなどの課題が挙げられていたので、管理職を中央に配置する図1原案を作成した。これをもとに原案を作成し、話し合いを重ねる中で、中央の非常勤が座るワークスペースは、縦に配置することになった。また、左下の集中席に憩いのスペースを作る



写真4

ことになった。

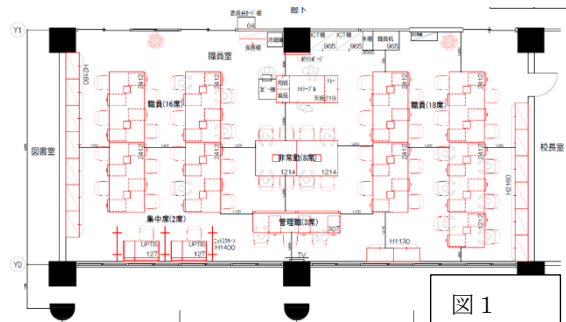


図1

新しいレイアウトにするために予算委員会に50万円計上した。

- ①非常勤机×2 214200円
- ②管理職机 213400円
- ③ハイテーブル 68900円

憩いのスペースの机や新しい食器棚、カーテンなどは、学校予算では購入できない。コロナ禍で、歓送迎会などが中止になり、親和会費に余裕があったので、職員会議で承認してもらい、20万円ほど計上した。

- ①食器棚 89990円
- ②憩いスペース机 14000円
- ③憩いスペース椅子 7120円
- ④造花 10000円
- ⑤カーテン 100000円

## 職員作業

職員会議で提案が通ったことにより、全職員で働きやすい職員室づくりを目指すことになった。写真5の左側の写真は、旧レイアウトから新レイアウトに移動する前の写真である。中央は、水回りを改善した写真である。右側は、新しく設置したワーキングスペースである。



写真5

これまで学年ごとに固まっていた机の配置をベア学年で配置するようにした。これによって、異学年活動の打ち合わせをスムーズに行えるようになった。また、職員室の中央は、非常勤講師のために、正方形の大きなテーブルを2つ用意した。非常勤講師は、14:00頃までの勤務なので、その後は会議を行ったり、作業を行ったりするスペースとして活用できる。ハイテーブルは、下の段に収納をつくることができるので、非常勤講師の荷物をしまふことができる。

古くなった食器棚を捨て、大きくて収納が多い食器棚を新しく購入した。近くには憩いのスペースを用意して飲み物や食べ物を食べながら休憩できるスペースを作った。

## 7 考察「所属感の高まり」

### 職員室レイアウトプロジェクト振り返りから

ウェブのアンケート結果、「みんなでやった感じがした。」という内容が多く寄せられた。具体的な記述としては、以下のような意見が見られた。

- びっくりするほど、見渡せて、広々として驚いています。カーテンや、食器棚、テーブルの配置で、職員室の圧迫感が減りました。また、プロジェクトの皆さんが、全体のために率先して働いてくださる様子が素晴らしかったです。
- 働きやすく、広い快適な職員室になりました。職員室に緑があり、音楽がかかり、退勤しやすい声掛けをしてくれて、働き方改革がものすごく進んだ気がします。たてわりの島で2年生が近くにいる、情報が伝わってきやすいです。
- 大胆な断捨離をしていただいたことで、空間がゆったり使い、その結果、仕事がしやすくなり、気持ちにも余裕が生まれたと思います。関わってくださった方々、ありがとうございました。

これらの記述からは、職員にとって「より居心地の良

い職員室をつくること、所属感を高めること」という本プロジェクトの目的が達成できたと評価されたといえよう。

今回は、全職員を巻き込んで行うために、まず中心になって企画をするプロジェクトを立ち上げ、そこで練られた企画案を職員会議に提案して共有するという流れで実施した。話し合った議事録や決定事項を細かくミラ임で共有することで、プロジェクトに参加していない職員が蚊帳の外にならないように配慮した。

自分たちのアイデアが生かされ、こんなにも職員室をよりよい場所へと変えることができ、職員室がお気に入りの場所になることで、職員の雰囲気もよくなり所属感が増し、働く意欲へとつながるであろう。それがよりよいチームビルディングにつながると考える。

## 8 今後に向けて 新しい価値観

どの職員も職員室をよりよい場にするために多くのアイデアをもっていることがわかった。そこで、より居心地の良い職員室への改造としてプロジェクトを継続している。

「シーズン2」

- コピー機やシュレッダーの位置
- 月1回の清掃タイムの導入
- AI型スピーカー導入

15:30の休憩時間になるとお知らせが入り、クラシックピアノを再生してくれる。

- おふいすコンビニの導入

どの職員も職員室をよりよい場にするために多くのアイデアをもっている。

「シーズン3」

- 教育書の図書コーナーをつくらう

「シーズン2・3」では、レイアウトプロジェクトのメンバーを一度解散し、新たにメンバーの募集をかけた。アイデアを生かしたいというプロジェクトメンバーを集め、企画を立て、全職員に共有していくという流れはシーズン1と変わらない。チームビルディングのステップをきちんと踏むことで、全職員を巻き込んだレイアウトプロジェクトになるのだと考える。

学校をよりよくしたいというアイデアがあれば、校務分掌に縛られず、プロジェクトを立ち上げて実行していくことができるという雰囲気を学校の中につくることができた。新しい価値観を職員室の中に創造していくことを楽しむ職場へと変わっていった。レイアウトプロジェクト以外にもいくつもプロジェクトが立ち上がっている。働きやすく楽しく生き生きとした職場は、誰かにつくってもらうのではなく自分たちでつくることができるという考えへの転換、それが働く意欲へとつながる兆しになっていると考える。